

米国カリフォルニア州産柑橘類 輸出市場では引き続き逆風

[FreshPlaza 2024 年11月13日](#)

カリフォルニア州の2024/25年度シーズンの開幕は、楽観的な見方に包まれている。コーチェラバレーとサンホアキンバレーの今シーズンのレモンは、現在収穫され出荷中である。全体として、同州のレモンの収穫量は昨シーズンよりも増加すると予想されている。過去数年間、世界のレモン市場は過剰供給の影響を受けているが、生産者達は最近の不採算な年に比べてより良いシーズンに期待している。

ネーブル種は梱包の3週目にあり、収穫のペースは毎週上がっている。オーテンリース社のダニエル・カス氏は、「収穫量は昨年より多く、果実の品質は昨シーズンより大幅に改善している」と言う(以下「」は同氏の話)。昨シーズンは大玉の果実が主流であったが、今年はネーブル種とカラカラオレンジの両方でサイズが小さいようだ。「小玉の果実が過剰に供給されるのを防ぐために、収穫を適切に管理することが重要である。」サイズが小さくても生産量は昨シーズンを10~15%上回ると同氏は予想している。バレンシア種のオレンジは今シーズンの収穫を終えたが、需要と供給のバランスが良かった。

種なしマンダリンは収穫と梱包が始まったばかりだが、ウンシュウミカンなど種の有る早生マンダリンも現在出荷されている。マンダリンも昨シーズンに比べて生産量が多く、その一部は園地の成園化によるものである。マンダリンは2023/24年度に好成績を収めたが、今シーズンも北米の柑橘類業界の重要な牽引役として、再度の好成績が期待されている。

暑い夏 「柑橘類の生育期間は全般的に素晴らしかった。」カリフォルニア州では通常どおり夏は非常に暑く、乾燥した天候であった。「記憶に残る中で最も暑い部類の夏であったが、天候が果樹に適度のストレスを与え、果実の過度の肥大を防ぎ、糖度を押し上げた。」10月末にはようやく涼しくなり、州内は日中の暖かさ、夜の涼しさ、雨の少なさといった素晴らしい柑橘類を育てる典型的な天候に恵まれている。「すべての品種の品質は、夏から秋にかけてのこれらの理想的な生育条件の恩恵を受けている。」現在、収穫条件も理想的である。雨や霧は収穫を遅らせる傾向があるが、通常、そのような状況は12月から3月にかけて発生する。

国内需要は堅調だが コロナ禍以降、国内市場の需要は引き続き堅調である。「世界中の輸出市場では相変わらず逆風に直面しているため、力強い国内事業は生産者にとって非常に重要である。」価格の上昇と為替レートの悪化などいくつかの要因が米国産柑橘類の海外需要を損なっている。関税もまた、米国の柑橘類にとって不利である。さらに、この業界は、困難な物流チェーンと、従来米国産の市場であったアジアへの供給をめぐる世界的な競争激化の影響を受けている。中国産柑橘類の品質向上と出荷量の増加も、同国における米国産柑橘類の需要を妨げている。「米国産柑橘類を高く評価するハイエンドの消費者からは安定した需要があるが、大衆市場からの大量の需要は他の選択肢を求めている。」

執筆者: マリーケ・ヘムズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

タイ 日本の需要拡大がパイナップル輸出を後押し

[FreshPlaza 2024 年11月13日](#)

日本のパイナップル市場は成長を遂げており、消費者の間では生鮮パイナップルが好まれている。日本の年間消費量は、果汁、缶詰、乾燥パイン等を含め18万トンを超えている。気候がパイナップルの栽培に適さないため、日本はパイナップルの大部分を輸入しており、タイは主要な供給国である。タイと日本の経済連携協定(JTEPA)は、タイ産パイナップル等農産物の貿易上の利益に関する交渉を促進するものである。

(スリサンパン商務副大臣一行は最近、)日本最大の卸売市場である大田市場を訪れ、市場の管理やオークションのプロセスについて理解を深めた。今回の訪問は、タイにおける農業マーケティング戦略を強化し、日本におけるタイ産農産物のプレゼンスを拡大するために極めて重要である。また、タイ産果実・野菜の日本への輸出増についての議論の契機となる。「ファイムン・パイナップル」が日本の地理的表示制度で登録されたことは、タイの農産物の品質の高さを強調し、国際市場での存在感を高めるものである。

出典: [Thaiger](#)